災害心理研究所活動報告書

所　長　筒井　　雄二

○研究目的

原子力災害による放射線被ばくに対する不安や恐怖が人々の心理的健康と子どもたちの発達に及ぼす影響のメカニズムを明らかにする。これにより、原子力災害が引き起こす心理的影響をより小さくするために有効な心理学的対処方略を開発する。

○研究メンバー

＜研究代表者（研究所長）＞
筒井雄二（福島大学共生システム理工学類・教授）

＜研究分担者（プロジェクト研究員）＞
内山登紀夫（福島大学人間発達文化学類・教授）
高谷理恵子（福島大学人間発達文化学類・教授）
富永美佐子（福島大学人間発達文化学類・准教授）
高原　円（福島大学共生システム理工学類・准教授）
本多　環（福島大学うつくしまふくしま未来支援センター・特任教授）

＜連携研究者（プロジェクト客員研究員＞
氏家達夫（名古屋大学大学院教育発達科学研究科・教授）
氏家二郎（国立病院機構福島病院・病院長）
木下冨雄（京都大学名誉教授，(財）国際高等研究所フェロー）
坂田桐子（広島大学大学院総合科学研究科・教授）
吉田浩子（東北大学大学院薬学研究科　ラジオアイソトープ研究教育センター・講師）
吉野裕之（NPO法人シャローム）

○研究活動内容

以下で報告する活動は、研究所に所属しているメンバーが、それぞれ独自に競争的研究経費を獲得して行ってきた活動である。従って活動の詳細については、それら研究経費の提供先に提出した実績報告書を参照されたい。災害心理研究所の活動内容をご理解いただくため，活動の概要のみここに報告する。

１．研究活動

①原子力災害が幼稚園児、小学生と保護者に与えた心理学的影響に関する調査

昨年度に引き続き、科学研究費補助金(B)「放射線被ばくに対する不安が心理的健康と発達に及ぼす影響のメカニズムの解明」に関する調査研究として実施した。原子力災害が引き起こす心理的影響について心理学的手法により明らかにすることを目的とした研究で、福島市で生活している児童，園児と保護者を対象に調査を行った。

②原子力災害が乳幼児とその保護者に与えた心理学的影響に関する調査

本研究も上記と同様、科学研究費補助金(B)「放射線被ばくに対する不安が心理的健康と発達に及ぼす影響のメカニズムの解明」に関する調査研究として、昨年度と同様に行った。本研究は福島県保健福祉部こども未来局子育て支援課と共同で行われた。福島県内で生活する1歳6ヶ月児、3歳児と、彼らの保護者、及び4か月児の保護者を対象に、原子力災害による心理的影響について、心理学的方法により調査し

た。

③福島の乳幼児を原発事故の影響から守るための統合的支援システムの開発に関する研究

本研究は環境省平成 26 年度原子力災害影響調査等事業（放射線の健康影響に係る研究調査事業）として、名古屋大学大学院教育発達科学研究科の氏家達夫教授を主任研究者として採択された「福島の乳幼児を原発事故の影響から守るための統合的支援システムの開発」の調査研究として行われた研究であり、平成 27 年度が最終年度であった。

27 年度は乳幼児をもつ母親を対象として，ポジティブ心理学の枠組みを利用した心理学的プログラムを開発し、福島県内の 2 市でその効果を検証するためのパイロットスタディを行った。

④チェルノブイリ原発事故 30 年後の心理的影響に関する調査

チェルノブイリ事故後にウクライナに設置された社会心理リハビリテーションセンターを訪問し、チェルノブイリ事故の被災者を対象とした面接調査を実施した。本研究も環境省平成 26 年度原子力災害影響調査等事業（放射線の健康影響に係る研究調査事業）の一環として行った。

２．研究成果の発表

上記①および②については、平成 27 年 9 月 30 日に福島大学において記者会見を行った。記者会見で発表された内容は、朝日、読売、毎日、日経、河北、福島民報、福島民友など新聞各社が報じたほか、ニュース番組でも報道された。

また、平成 27 年 9 月 22 日から 24 日に名古屋国際会議場（名古屋市）で開催された日本心理学会第 79 回大会において「原子力災害が心理的影響を引き起こすメカニズムを考える」と題したシンポジウムを開催し、成果の一部を報告した。同大会では、開催校（名古屋大学）が企画したシンポジウムとして「心理学はどのように人間の幸福に寄与できるのか」が開催されたが、そこでも「原子力災害が引き起こす心理的影響：心理学は福島の人々の幸福に寄与できるのか？」というタイトルで成果の一部を紹介した。

そのほか、山形・福島避難者支援研修交流会、福島県母子保健担当者会議、福島県教職員組合、ポラリス保健看護学院、広島大学、学習院大学から研究報告の要請をいただき、それぞれ講演会、セミナーという形式で研究成果の一部を紹介した。

当研究所の活動に関わる新聞報道は、研究所が把握している範囲で 2015 年 4 月 1 日から 2016 年 3 月 31 日まで 10 件。

３．ウェブページ

研究所の活動や原子力災害が引き起こす心理的影響に関する問題について、市民の皆様によりよく理解いただくために、ウェブページを開設し関連情報を発信している。
URL は http://cpsd.sss.fukushima-u.ac.jp/